

デザイナーのためのiPhoneアプリUI/UX設計

iOS Dev Centerでの登録手順

ドキュメントの内容

本ドキュメントは、4月下旬に変更されたiOS Dev Centerにおける登録手順を解説するものです。以下の内容が含まれていますので、本書の該当箇所を実践する際に参照してください。通し番号は振り直しており、本書とは一致していません。

開発用の証明書とプロファイルの入手まで

本ドキュメントの「開発用の証明書を作成する(P1)」から「開発用プロビジョニングプロファイルの作成(P7)」までが、本書のP190～196に該当します。

公開用の証明書とプロファイルの入手まで

本ドキュメントの「公開用の証明書を作成する(P8)」から「公開用のプロビジョニングプロファイルを作成する(P10)」までが、本書のP202～204に該当します。

開発用の証明書を作成する

iOS Provisioning Portalを開く

① iOS Dev Centerにサインインしたら、「Certificates, Identifiers & Profiles」を選びます(図1)。

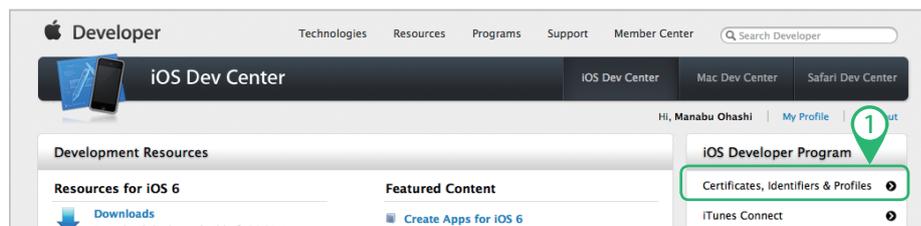


図1 アプリケーションを実機で動かす際に、必要となるファイルを取得するページに移動する

開発用の証明書を作成する

② 「Certificates」をクリックします(図2)。



図2 証明書を作成する画面へ進む

③「+」ボタンをクリックします(図3)。

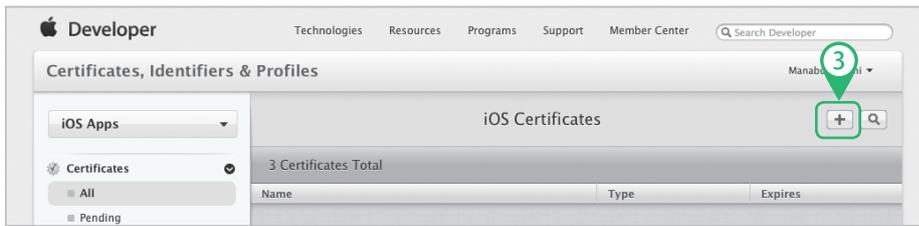


図3 証明書を新たに作成する

④開発用なので、「Development」の「iOS App Development」を選択します(図4)。

⑤「Continue」をクリックします。

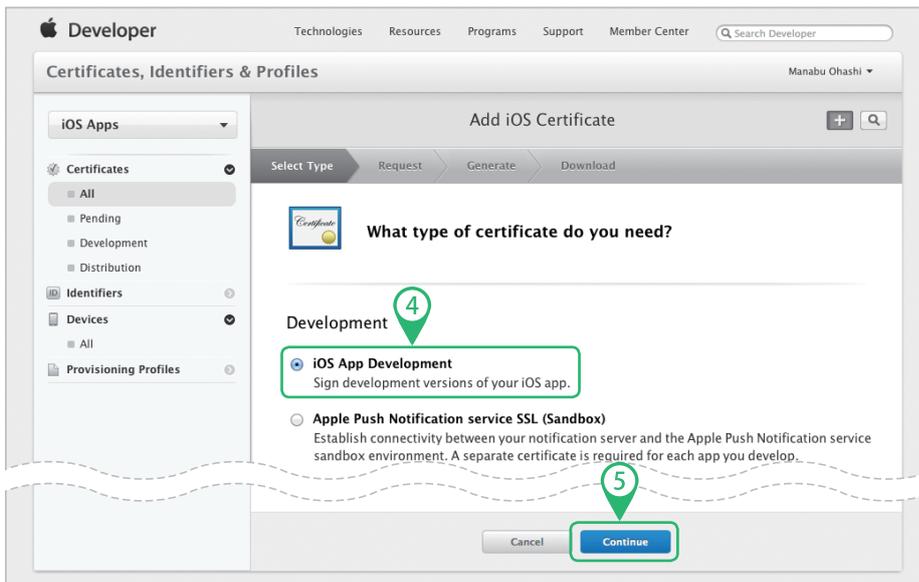


図4 開発用の証明書を選択

⑥次の画面は証明書に関する説明が書かれています。内容に目を通してから「Continue」をクリックします(図5)。

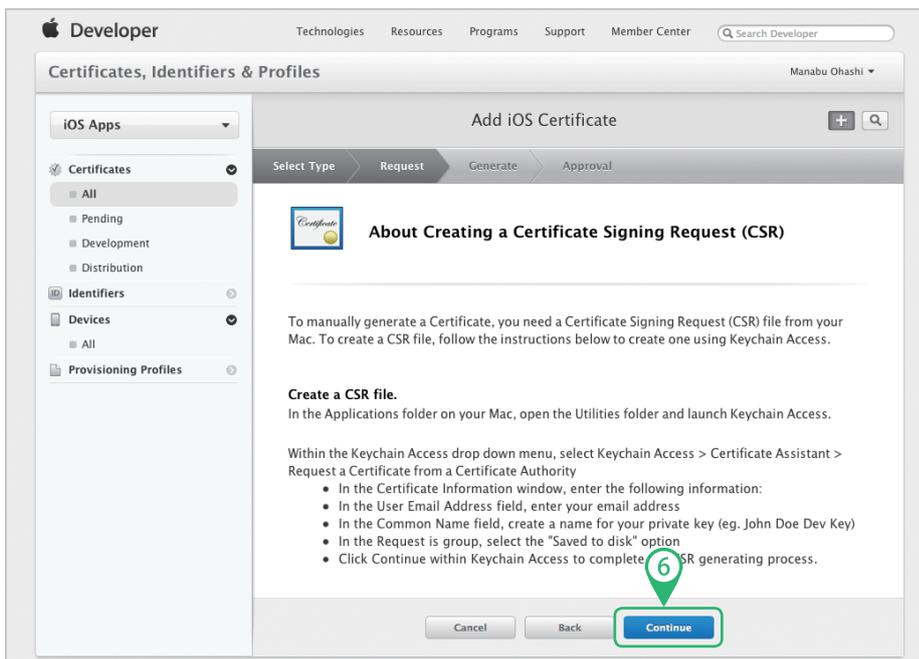


図5 作成した証明書の登録に関する解説画面

- ⑦「Choose File」をクリックして、保存しておいた証明書要求(CertificateSigningRequest.certSigningRequest)を選びます(図6)。
- ⑧「Generate」をクリックします。

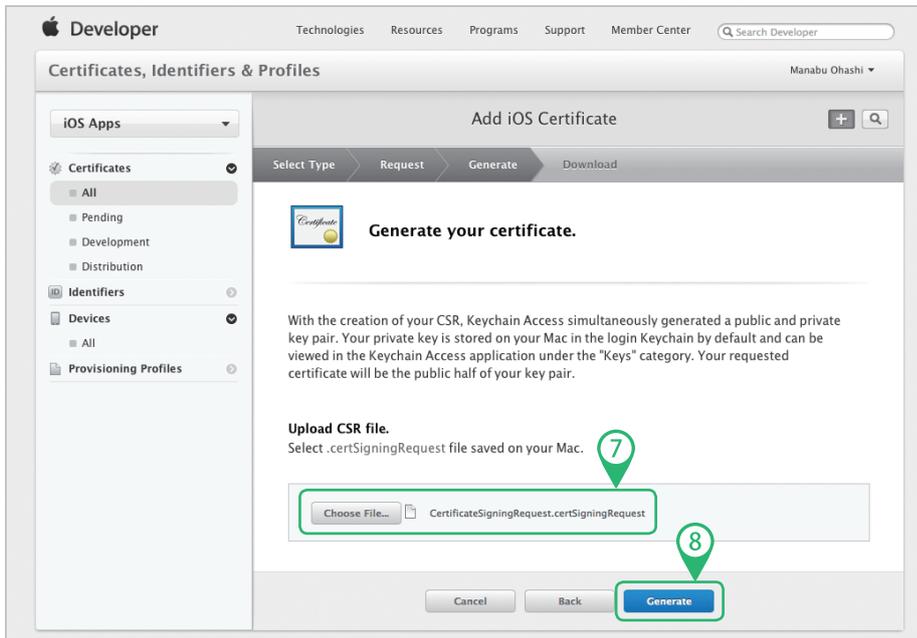


図6 証明書要求をアップロードして署名してもらう

- ⑨少し待つと証明書が作成されて画面の表示が変わるので、「Download」をクリックして証明書をMacにダウンロードします(図7)。

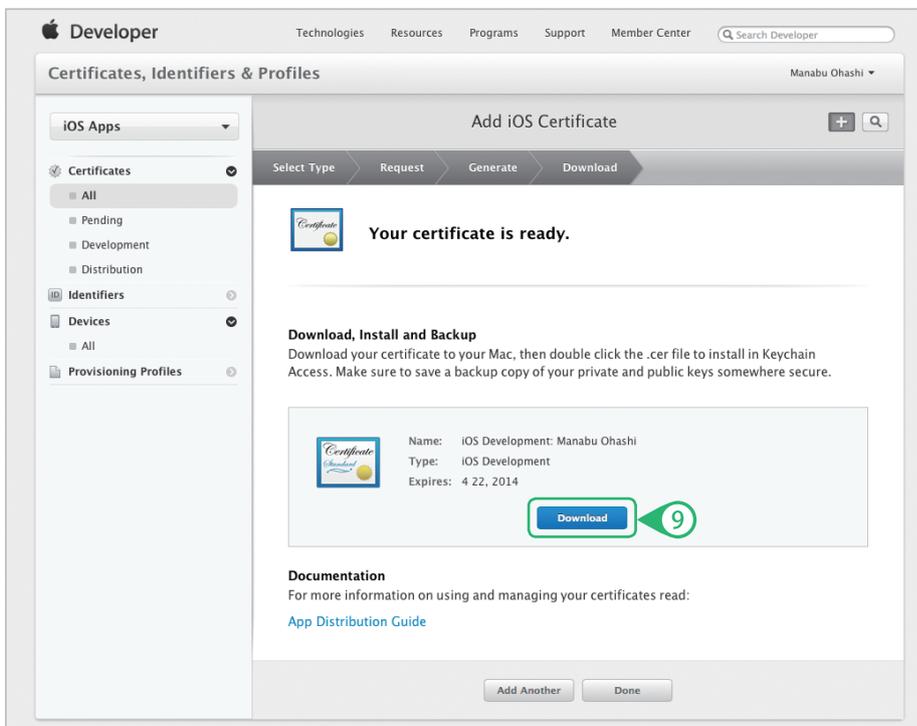


図7 証明書をダウンロード

- ⑩ダウンロードが済んだら、ダウンロードした証明書^{*1}ファイルをダブルクリックします。するとキーチェーンアクセスが起動して、証明書が登録されます。

*1
クリックしてダウンロードした場合、「ダウンロード」フォルダーに「ios_development.cer」というファイル名で保存されている

デバイスの登録

デバイスのUDIDを調べる

- ① iPhoneをMacにつなぐと、iTunesが起動します。左側のメニュー^{*2}の「デバイス」から、つないだiPhoneを選択します(図8)。
- ②「概要」の「シリアル番号」をクリックします。
- ③すると「識別子(UDID)」が表示されます。この状態で[command]キーを押したまま[C]キーを押すと、UDIDがクリップボードにコピーされます(図9)。

^{*2}
iTunes画面の左側にメニューが表示されていない場合は、「表示>サイドバーを表示」を選ぶ



図8 アプリケーションをインストールするiPhoneを選択



図9 UDIDをコピーする

デバイスを登録する

- ④ 証明書を作成したときと同じ画面(図7)にアクセスし、「Devices」をクリック^{*3}します。
- ⑤ 画面が「Add iOS Devices」に切り替わるので、「+」をクリックします(図10)。
- ⑥ デバイスを1台登録^{*4}するときは「Register Device」をチェックします。
- ⑦ 「Name」には、「AさんのiPhone」や「〇〇部開発用iPhone2」などと、わかりやすい名前を入力します。「UDID」には、先ほどクリップボードにコピーしたUDIDを[command]キーを押したまま[V]キーを押して張り付けます。
- ⑧ 「Continue」をクリックします。

^{*3}
サインインし直した場合は、「Certificates, Identifiers & Profiles」画面へ進んでから「Devices」をクリックして直接アクセスする(下図)

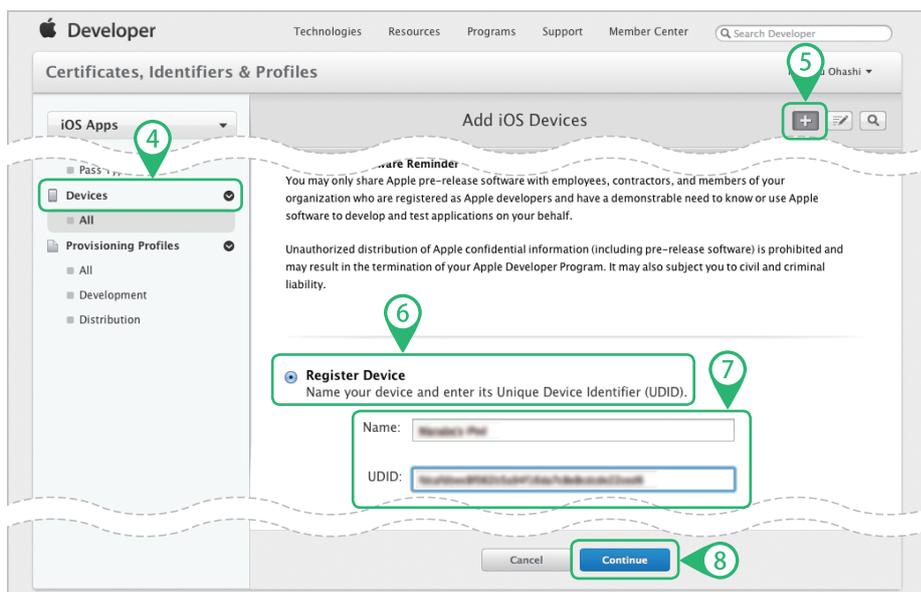
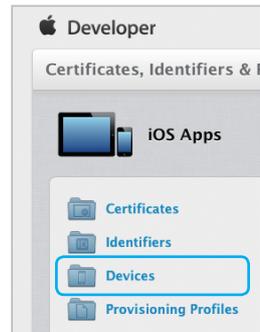
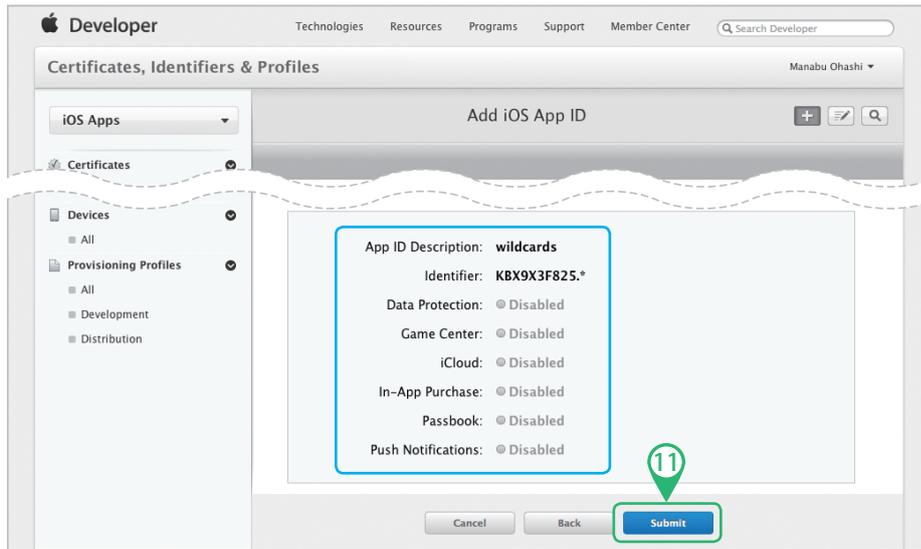


図10 登録するデバイスを設定する



^{*4}
デバイスは100台まで登録できる

⑪ 設定内容^{*7}を確認し、「Submit」をクリックしてApp IDを登録します(図13)。



*7

「Disabled」になっている機能は特定のApp IDを使うため、ワイルドカードを使う今回の手順では設定しない。詳細を知りたい場合は下記のURLで「iOSチーム管理ガイド」を参照するとよい
<https://developer.apple.com/jp/devcenter/ios/library/documentation/DevPortalGuide.pdf>

図13

App IDを登録する

開発用プロビジョニングプロファイルの作成

⑫引き続き作業します。画面左側のメニューから「Provisioning Profiles」を選び、「+」をクリックしてプロファイルを作成します。

⑬開発用なので、「Development」の「iOS App Development」をチェックします。

⑭「Continue」をクリックします(図14)。

⑮次の画面でApp IDを設定します。ここでは、前項でワイルドカードとして設定した「Wildcard」を選択して、「Continue」をクリックします。(図15)。



図14

プロファイルを新たに作成する



図15

App IDを選択する

⑩先ほど取得した証明書を選択して「Continue」をクリックします(図16)。

⑪インストールするデバイスにチェックを入れ、「Continue」をクリックします(図17)。

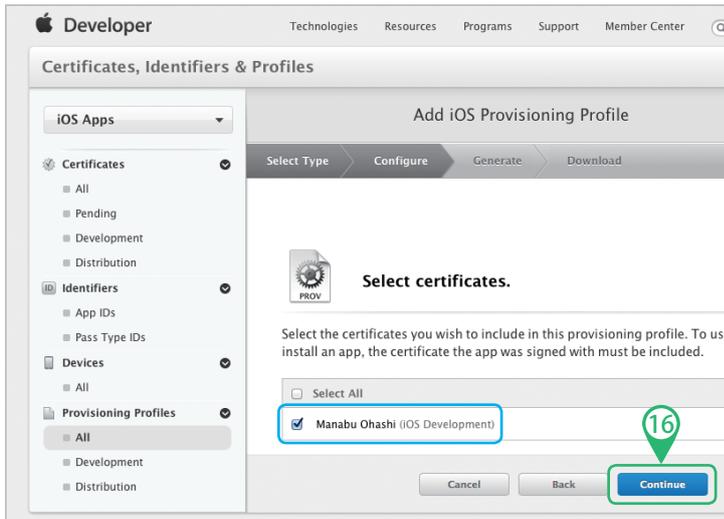


図16 証明書を選択する

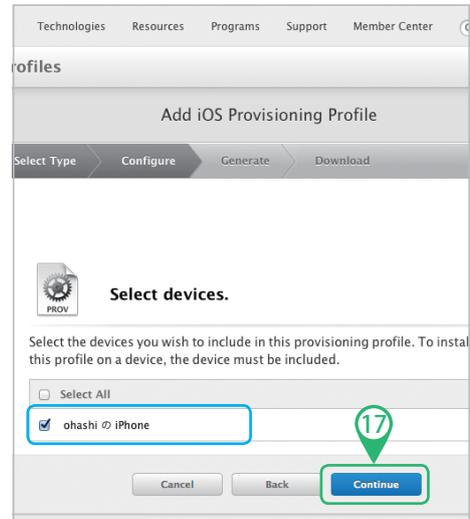


図17 インストールするデバイスを選択する

⑫「Profile Name」で名前を設定^{*8}して「Generate」をクリックします(図18)。

^{*8}
名前は何でも構わない。ここでは「wildcard」とした

⑬少し待つとプロビジョニングプロファイルが作成されて画面の表示が変わるので、「Download」をクリックしてMacにダウンロードします(図19)。

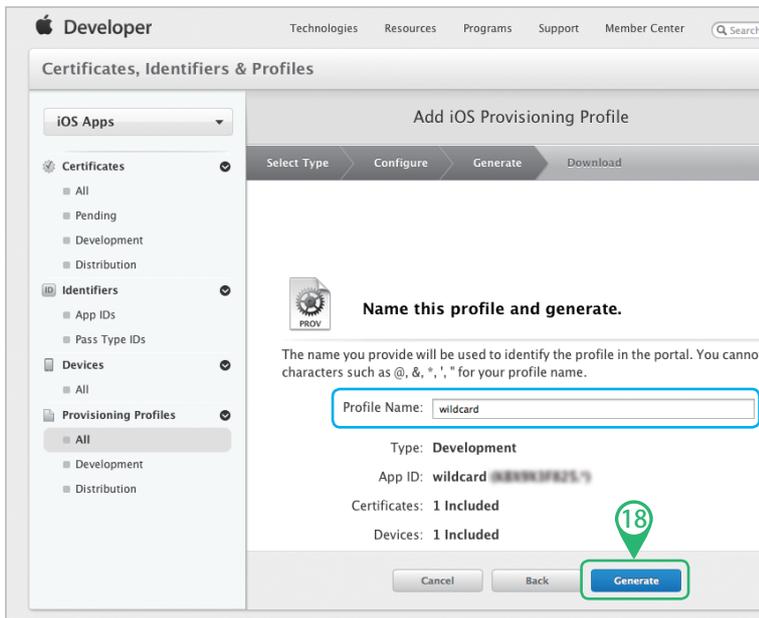


図18 プロファイルの名前を設定する

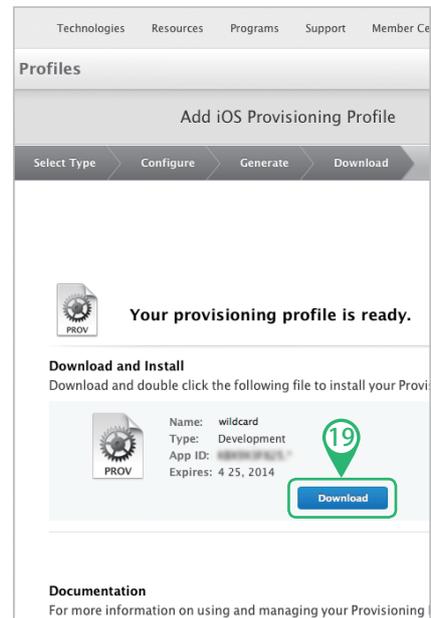


図19 プロビジョニングプロファイルをダウンロード

⑭ダウンロードしたプロビジョニングプロファイル^{*9}をダブルクリックすると、Xcodeが起動してOrganizerに登録されます。

^{*9}
「ダウンロード」フォルダーに拡張子「.mobileprovision」が付いたファイル名で保存されている

以上でアプリケーションを実機へインストールする準備が整いました。実機にインストールする手順は、本書のP196以降を参照してください。

公開用の証明書を作成する

- ① Webブラウザで「Certificates, Identifiers & Profiles」画面へアクセスして「Certificates」を選び、右上の「+」をクリックして「App Store and Ad Hoc」を選び、「Continue」をクリックします(図20)。次に表示される、証明書のキーチェーンアクセスへの登録に関する説明画面では、内容に目を通してから「Continue」をクリックします。

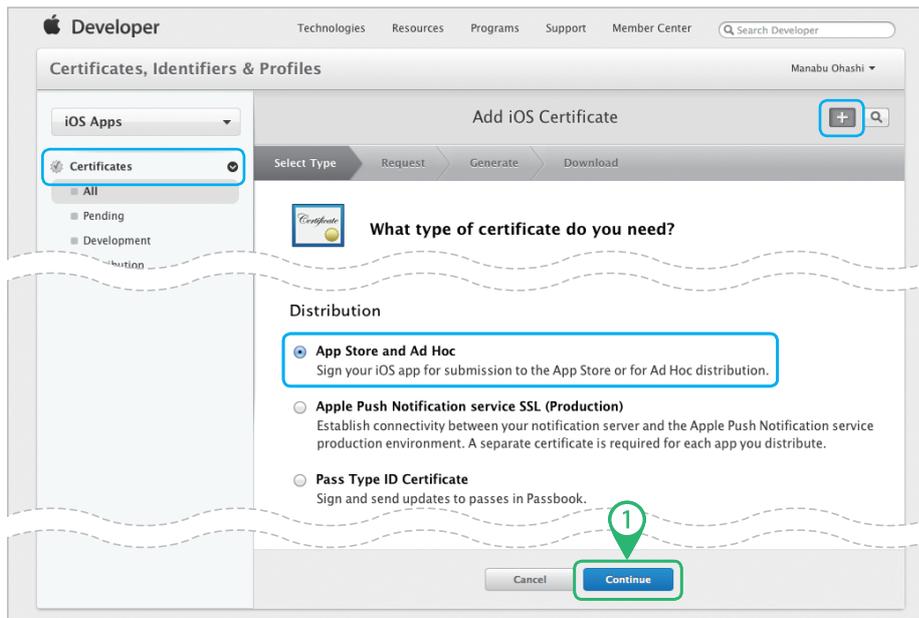


図20 公開用証明書を新たに作成する

- ② 証明書を生成する画面では、「Choose File」をクリックして開発用証明書を作成したときに使った証明書要求を選び、「Generate」をクリックします(図21)。

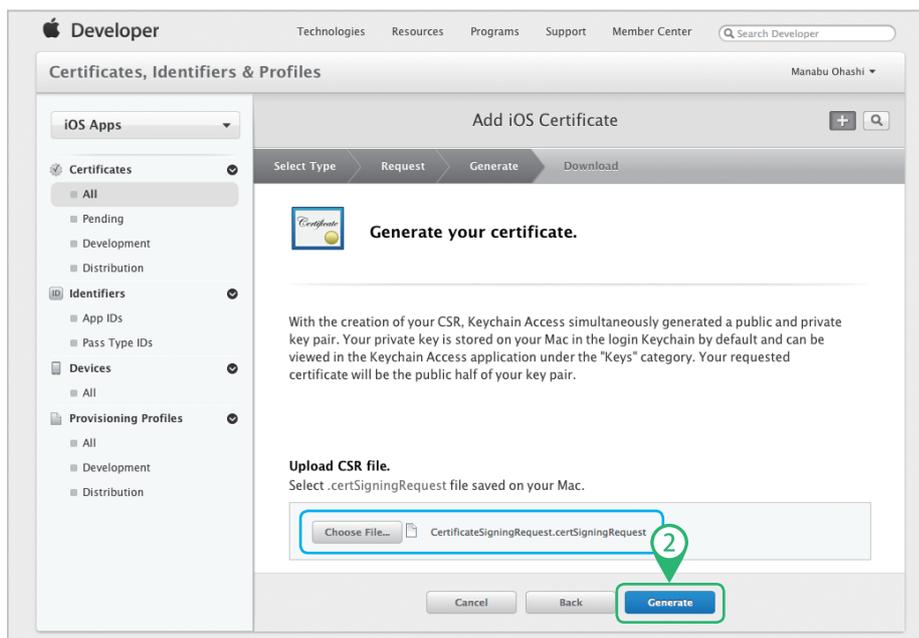


図21 証明書要求をアップロードする

- ③ 少し待つと証明書が生成されて画面の表示が変わるので、「Download」をクリックしてMacにダウンロードします(図22)。

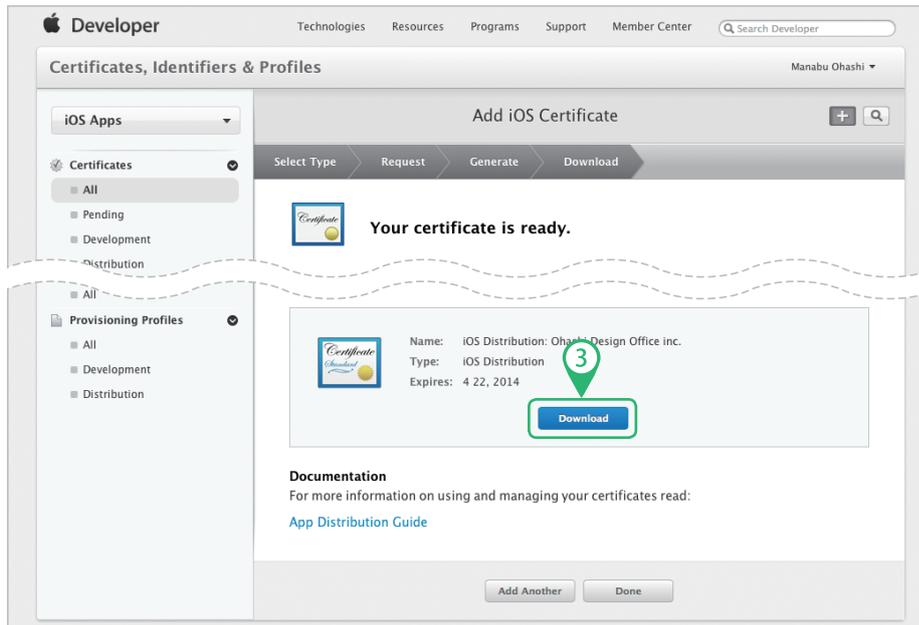


図22 証明書をダウンロードする

- ④ ダウンロードした**証明書**^{*10}ファイルをダブルクリックして、キーチェーンアクセスに登録します。

*10 クリックしてダウンロードした場合、「ダウンロード」フォルダーに「ios_distribution.cer」というファイル名で保存されている

公開用のプロビジョニングプロファイルを作成する

- ⑤ 引き続き作業します。画面左側のメニューから「Provisioning Profiles」を選び、右上の「+」をクリックして「App Store」を選んだら「Continue」をクリックします(図23)。

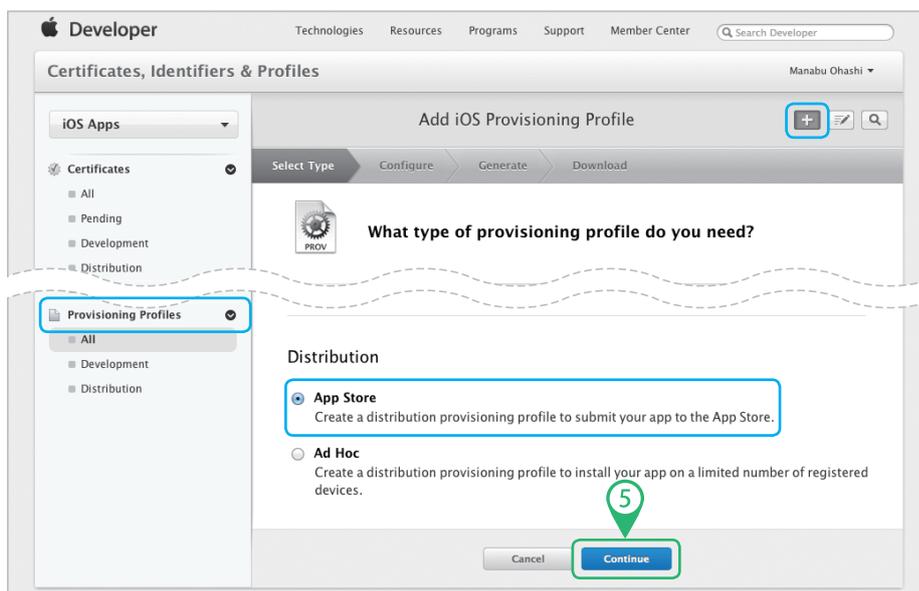


図23 プロビジョニングプロファイルを新たに作成する

⑥ 次のApp IDの選択画面では、App IDとして使い回せるように作成したワイルドカードを選んで、「Continue」をクリックします(図24)。

⑦ 証明書の選択画面で証明書を選択して「Continue」をクリックします(図25)。

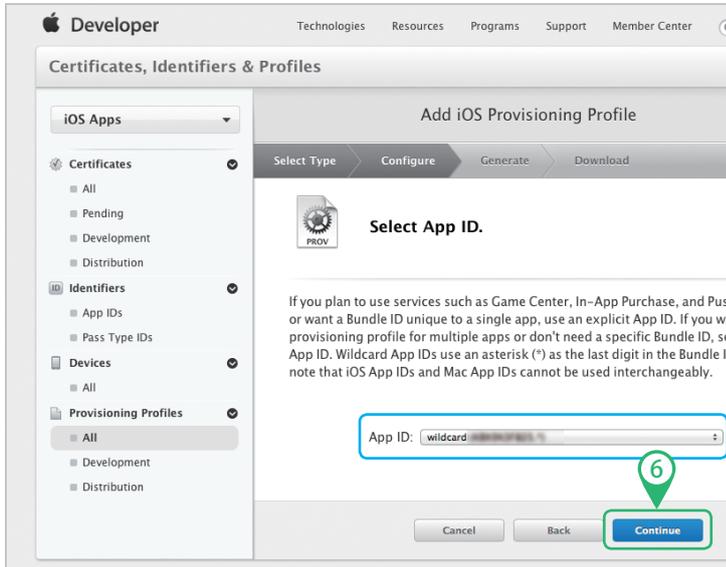


図24 App IDを設定する

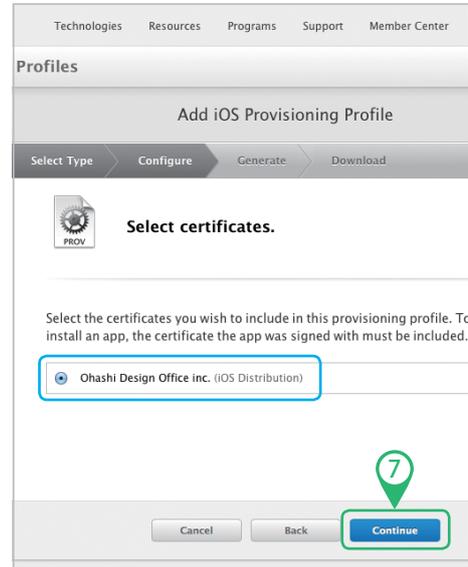


図25 証明書を設定する

⑧ 「Profile Name」に適切な名前^{*11}を付け、「Generate」をクリックします(図26)。

⑨ 少し待つとプロビジョニングプロファイルが生成されて画面の表示が変わります。「Download」をクリックして、公開用のプロビジョニングプロファイルをMacにダウンロードします(図27)。

*11 使用できる文字はアルファベットと数字のみ。ここでは、「Profile Name」を「wildcard for appstore」とした

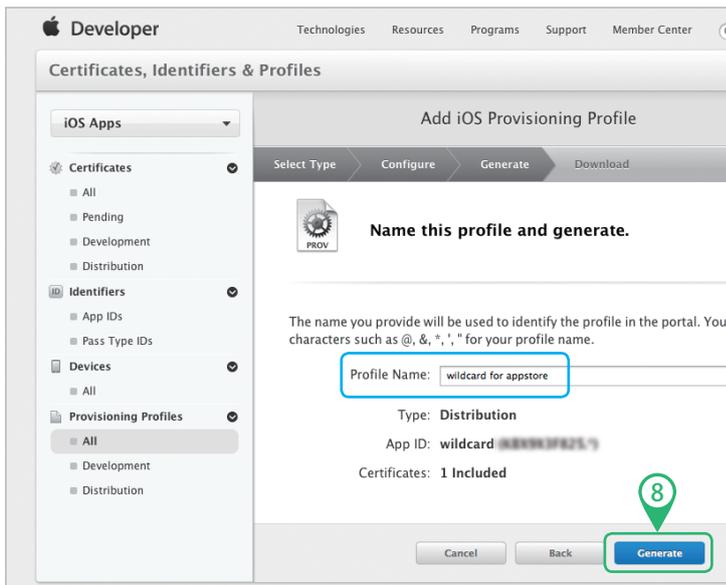


図26 プロファイルの名前を設定する

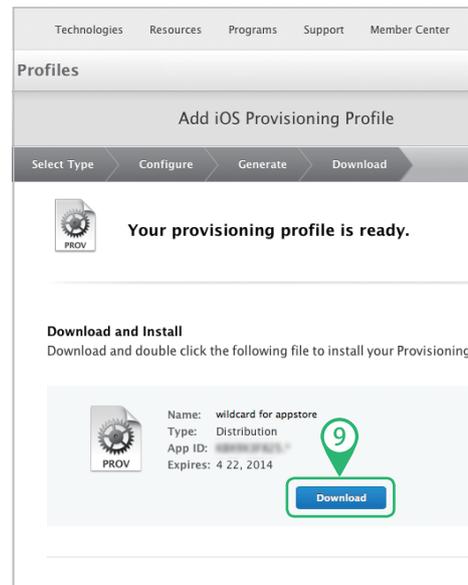


図27 プロビジョニングプロファイルをダウンロード

⑥ ダウンロードしたプロビジョニングプロファイル^{*12}をダブルクリックして、XcodeのOrganizerに登録します。

以上で、アプリケーションをiTunes Connectで申請する準備が整いました。申請手順は、本書の204ページ以降を参照してください。

*12 クリックしてダウンロードした場合、「ダウンロード」フォルダーに「wildcard for appstore. mobile provision」というファイル名で保存されている